

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	市村 昌子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校選択制は、市町村によって基準や手続きなどが異なるため、鎌ヶ谷市の制度についてよく理解していただくよう、引き続き周知方法などの検討を行う。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	学校用務員の退職者が出た学校について、新たな人員配置に代わり、民間委託により人件費の抑制を図る。
②①に基づく取組み結果	10/31までに住民となっている新小学1年生及び新中学1年生の保護者に対し、通知を送付した。また、就学時健康診断において、新小学1年生の保護者に説明を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の入学予定者	意図(対象をどうするのか)	学びたい、学ばせたい学校に入学できる。
②事務事業の概要	小中学校入学予定者が入学の前年に入学を希望する学校を選択できる学校選択制を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成28年度については中学校1校について受け入れ可能枠を超過する申出があったことから、抽選を実施し、不承認となった者があった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	81名(小学校38名、中学校43名)の児童生徒より学校選択制の申請があった。中学校1校については、5名の受け入れ可能枠に対し18名の申出があったことから、抽選会を実施した。結果、申請者数81名のうち、68名が承認、13名が不承認となった。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	小中学校入学予定者数	1,964	1,908	1,832	人	業務取得
	ii	学校選択制申請者数	95	87	81	人	業務取得
iii							
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算	
事業費(千円)	21,312	21,685	金額(千円)		内容	22,180	
	国支出金(千円)		536		学校評議員報償		
	県支出金(千円)		17,839		学校施設環境整備員派遣委託		
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	21,312	21,685			22,180	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	該当保護者への通知の送付や、広報及びHPでのお知らせを通じて、制度に関し、周知できた。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	制度の周知をしたことで、申請期間内の運用を滞りなく行えた。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H26からの繰越	
		H26⇒27繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	少人数教育推進に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柳 昌孝			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	少人数指導の質の向上を図るため、きらり先生研修会のみならず各種研修会でも効果的な実施について指導支援していく。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	少人数指導の質の向上を図るため、市教育委員会指導訪問および要請訪問時に授業研究、協議会を実施し、きらり先生研修会を含め、効果的な実践について指導支援していく。
②①に基づく取り組み結果	研修会を2回実施し、少人数指導の効果的な学習形態の在り方の研修や情報交換を行った。指導計画、指導報告を精査し、授業改善に繋げる。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒にきめ細やかな学習を行うとともに、学校の活性化を図る。
②事務事業の概要	市内小中学校に1名ずつ少人数教育指導教員(きらり先生)を配置し、きめ細かな学習指導を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	児童生徒、保護者、教職員は少人数指導教員の導入に好感を持っており、議会においても少人数指導教育の推進に好意的である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	少人数指導教員(きらり先生)の配置により、各校チーム・ティーチングや少人数指導が可能となり、児童生徒の学習意欲や基礎的な学力の向上を図る等、きめ細かな指導をすることが出来た。児童生徒、教職員、保護者からもよい評価を得ることができ、学校の活性化を図ることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	きらり先生配置数	14	14	14	人	業務取得
	ii	きらり先生授業時間数	9,800	9,800	9,800	時間	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	23,405	23,729	金額(千円)		内容		
国支出金(千円)			23,247		少人数指導教員賃金		
県支出金(千円)			479		校外学習引率旅費		
市債その他(千円)			3		校外学習引率入場料		
一般財源(千円)	23,405	23,729			27,173		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	少人数指導の質の向上を図るため、きらり先生研修会のみならず各種研修会や担当教員との打ち合わせを行い効果的な実施について引き続き指導支援していく。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	学力向上のためにもきめ細やかな指導を行うことは重要であり、効果的な実施がなされているが、さらに指導方法等について向上を図っていく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	平成29年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	特別支援教育推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柳 昌孝			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修と、心理発達相談員による迅速かつ専門的な指導を行う。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修を年3回から年4回に増やし情報交換を増やす。また、引き続き市内全14校で心理発達相談員による巡回相談を実施し、専門的な指導・助言を行う。
②①に基づく取り組み結果	年3回の特別支援教育推進指導教員の研修会にて事例報告やグループ協議、情報交換を積極的に取り入れた。心理発達相談員による巡回相談を市内全14校で複数回実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	特別支援教育が必要と思われる市内児童生徒	意図(対象をどうするのか)	特別支援教育が必要と思われる児童生徒個々のニーズに応じたきめ細かな指導を行う。
②事務事業の概要	市内小中学校に1名ずつ(大規模校2名)ずつ特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)を配置し、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に対してきめ細かな学習指導・学校生活支援を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	特別な支援の必要な児童生徒は年々増加傾向にある。インクルーシブ教育システムの構築に向け、多様化する個々のニーズに応じた専門的な指導やきめ細やかな支援体制づくりがさらに求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	一人一人の児童生徒のニーズにあわせて、特別支援教育のねらいを明確にし、効果的な学習形態で、きめ細かな指導を行うことができた。このような中で児童生徒は落ち着いて学習に取り組むことができるようになり、学び方や友達との関わりも好転するなど、学習の成果も上がってきた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	該当児童生徒数	186	176	189	人	業務取得
	ii	特別支援を受けている児童生徒数の割合 該当児童生徒数/必要児童生徒数	32	34	31	%	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算	
事業費(千円)	28,857	30,821	金額(千円)		内容	35,507	
	国支出金(千円)		30,398		特別指導教育推進指導教員		
	県支出金(千円)		421		校外学習引率旅費		
	市債その他(千円)		3		校外学習入場料		
	一般財源(千円)	28,857	30,821			35,507	

IV 評価・検討

①課題	対象となる児童生徒一人一人の多様なニーズに応じたきめ細やかな支援・指導のための時間の確保が課題である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	特別な支援を要する児童生徒の増加と個々の特性に応じた教育的ニーズの高まりにより、保護者の期待と信頼が大きいため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	教育指導及び心理発達相談員の充実	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	事例報告と情報交換会の実施	34,837	34,837	当初	34,837	30,821	H27からの繰越	0
				H27⇒28繰越			現年分	30,821
③達成状況	完了							
④未完了・非着手の理由		平成29年度への繰越額(単位:千円) 0						

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	小中学校コンピュータ等整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柳 昌孝			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	①小中学校14校のコンピュータシステムの一括管理 ②平成28年度コンピュータリニューアルに係る準備	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	コンピュータシステムのリニューアル後のソフト面・ハード面の指導・支援を行うとともに、次期学習指導要領のプログラミング教育に向けての準備を進めていく。
②①に基づく取り組み結果	小中学校14校のコンピュータのシステムの指導・支援を行った。またリニューアルに伴う情報提供及び円滑な移行を指導・支援した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内教職員・児童・生徒	意図(対象をどうするのか)	教職員には、校務の情報化を進めるとともに、児童生徒にはICT技術の向上を推進する。
②事務事業の概要	市内小中学校の児童生徒のコンピュータやインターネットの基礎的な理解と活用を図るため、全校のパソコン教室をはじめとするコンピュータ等を整備し、情報教育環境を整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成28年度リニューアルしたパソコンでの初期の不具合を解消し校務の効率化を推進する。平成32年度より始まる「プログラミング教育」に向けて指導助言する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	平成28年7月から8月にかけて、コンピュータのリニューアルを実施した。校務システム・学習システムの切り替えを導入して情報管理の整備を行った。					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i コンピュータ設置台数	1,351	1,351	1,155	台	業務取得
	ii タブレット設置台数	0	0	742	台	業務取得
iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	98,432	108,855	金額(千円)	内容	0	
国支出金(千円)			97,594	コンピュータ使用料		
県支出金(千円)			6,383	消耗品費修繕費		
市債その他(千円)			4,878	通信運搬費		
一般財源(千円)	98,432	108,855			0	

IV 評価・検討

①課題	コンピュータリニューアルに伴い、システムの変更と情報管理のセキュリティレベルが高くなった。現場での使用方法の支援・指導の充実。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	全小中学校14校のパソコンのリニューアルを完了したため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	リース契約終了に伴う小中学校コンピュータ等の整備。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額	決算額			
②計画に対する事業実績	全14校のリニューアルを実施した。	110,320	110,320	当初	110,320	H27からの繰越	0
				H27⇒28繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	108,855
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		平成29年度への繰越額(単位:千円)		0			

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	通学路安全対策事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	市村昌子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成27年度の学校やPTA要望に基づき、安全施設の整備を行い、自転車講習会など安全指導面も継続して実施する。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	平成28年度の要望に基づき、交通安全・防犯の両面から通学路の環境整備を行い、自転車講習会など安全指導面も継続して実施する。
②①に基づく取組み結果	指定通学路上の環境整備を行い、安全指導面の自転車安全運転講習会やスクエアード・ストレイト自転車安全教室も予定どおり実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の児童生徒及び通学路	意図(対象をどうするのか)	児童生徒が安全に安心して登下校できるようにする。
②事務事業の概要	第三次通学路安全対策推進行動計画に基づき、通学路の環境整備(グリーンベルトの設置・補修、カラー舗装の設置・補修、看板の設置、除草等)を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ドライバーへの注意喚起や歩行者のための安全施設を設置することで、登下校時の通学路における児童生徒の安全を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	平成28年度予定していた安全施設等設置工事は完了し、年度途中の要望についても可能な範囲で対応することができた。安全指導の面でも、小学校の自転車安全運転講習会やスクエアード・ストレイト自転車安全教室を実施することができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	6.4	6.3	6.3	%	業務取得
	ii						
iii							
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	14,788	14,440	金額(千円)	内容		15,000	
国支出金(千円)			12,549	工事請負費			
県支出金(千円)			1,196	樹木剪定委託			
市債その他(千円)			324	青色パトロールカー関係			
一般財源(千円)	14,788	14,440	281	スクエアードストレイト自転車講習安全教室業務委託		15,000	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	信号機設置や歩道拡幅は中長期的な整備となり、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。また、防犯面の対策も必要となっている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	学校やPTAからの要望は多く、まずは可能な安全対策工事を実施し、中長期的な工事も行おう一方、防犯面の対策として、新たに指定通学路への防犯カメラの設置や青色パトロールカーへのドライブレコーダーの設置を進めていく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	通学路整備工事や安全指導の実施。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	通学路整備工事や安全指導を実施した。	15,000	15,018	当初	15,000	14,440	H26からの繰越	0
				補正			現年分	14,440
③達成状況	完了			流用・充当	18			
④未完了・非着手の理由		平成28年度への繰越額(単位:千円) 0						

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	児童生徒安全パトロール事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	市村昌子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校や青少年センターと連携し、指定通学路に限らず、人気のない箇所等市内全域を巡回する。また、不審者情報等にも迅速に対応していく。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	学校や地域、青少年センターと情報共有し、新たな見守り活動と合わせ、児童生徒のパトロールを充実を図る。
②①に基づく取り組み結果	徒歩、車による市内全域のパトロールを行い、巡回箇所の強化や不審者情報への対応も強めることができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒のために安全な地域環境の維持を図る。
②事務事業の概要	市内の指定通学路や公園などにおいて、不審者等に対する警戒パトロール及び下校時の見守りを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	パトロールによる犯罪の抑止を目的とし、下校時の見守りを中心に児童生徒の安全を確保していく。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	市内全域を8名4班体制でパトロールを実施した。また、夏休み等の長期休業の時は、児童生徒の集まる公園等も重点的に巡回した。さらに、11月からは、4名2班を増員し、郊外の通学路に対する見守りを強化した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	6.4	6.3	6.3	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	15,240	17,759	金額(千円)	内容	17,849		
国支出金(千円)			17,759	児童生徒安全パトロール委託			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	15,240	17,759			17,849		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下校時間帯の不審者情報も多く見られ、学校や青少年センターとも連携して、迅速に対応していく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	通学路の安全確保は、継続的に行う事業であり、各関連機関と連携し、新たに実施しようとする83+(はちさんプラス)運動の効果も見ながら、臨機応変に対応する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	児童生徒の安全確保のため、パトロールの実施。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	継続的に市内通学路を中心にパトロールを実施した。	17,849	17,831	当初	17,849	17,759	H26からの繰越	0
				補正			現年分	17,759
③達成状況	完了			流用・充当	▲18			
④未完了・非着手の理由		平成28年度への繰越額(単位:千円) 0						

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校給食運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	5	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	仲田 政樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校給食センターにおける食育の更なる充実と平成29年度に向けた食物アレルギー対応第2段階への準備期間として、学校と協議し進めていく。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	学校給食用食材における地産地消(鎌産鎌消)食材の拡充および学校との食育連携の取り組みと、食物アレルギー対応の第3段階に向けた検討を進めていく。
②①に基づく取り組み結果	結果として食育新規事業では小学生親子対象の見学会を平成29年7月に、食物アレルギー対応では卵・乳に落花生を加えた除去食提供を平成29年6月より実施する。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内小中学校の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	食育を通じて食の大切さを伝える
②事務事業の概要	市内小中学校14校に対して、安全で魅力ある学校給食を安定的に提供し、児童生徒の健康増進を図るとともに、食に対する理解を深める。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	栄養バランスの良さ、豊富な献立などの給食の充実や地産地消(鎌産鎌消)の拡充および食育の取り組みへの要望がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	①小中学校14校児童生徒 8,402人(平成28年5月1日現在)に対し年間184日の学校給食を実施、②アレルギー対応食(除去食)の提供、③栄養士による学校訪問(14校)、④センター見学(23クラス737人)、⑤展示・Facebookによるセンター紹介					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 給食実施日数	184	184	184	日	業務取得
	ii アレルギー対応食の提供人数	2	5	8	人	業務取得
	iii 学校見学対応人数		590	737	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	850,886	903,222	金額(千円)	内容	855,030	
	国支出金(千円)		440,827	給食賄材料購入		
	県支出金(千円)		63,620	センター施設購入		
	市債その他(千円)		40,862	維持管理業務負		
	一般財源(千円)	850,886	903,222	291,622	運営業務負担	855,030

IV 評価・検討

①課題	学校給食センターにおける食育の更なる充実と平成29年度に向けた食物アレルギー対応第2段階への準備期間として、学校と協議し進めていく。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	食物アレルギー対応の除去食は7品目(卵・乳・落花生・えび・かに・小麦・そば)除去を目指しており、落花生を加え一段階進んだが今後更なる拡充が必要なため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H27⇒28繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由	0		流用・充当	
	平成29年度への繰越額(単位:千円)			

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	旧学校給食センター跡地利活用事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	仲田 政樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成28年度新規事業のため、評価なし。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	旧学校給食センター跡地の有効活用の推進を図るため、平成29年度に建物解体を実施する。
②①に基づく取組み結果	平成28年度新規事業のため、取組み結果なし。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	旧第一学校給食センター(旧第二学校給食センター)	意図(対象をどうするのか)	跡地の有効活用事業の推進
②事務事業の概要	新給食センターの稼働により、旧第一及び旧第二給食センター跡地について、新たな目的に活用するため建物解体に必要な業務を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	活用にあたり地元の意向を確認して実施していく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	旧第一及び第二学校給食センターの跡地の活用に向け、必要となる解体設計(第一)、測量(第一)、産業廃棄物処理(共通)、冷凍庫等ガス改修(共通)を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 解体進捗率				0	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	0	6,091	金額(千円)	内容		103,340	
国支出金(千円)			1,285	解体工事設計			
県支出金(千円)			2,266	用地測量			
市債その他(千円)			1,567	廃棄物処理		93,000	
一般財源(千円)		6,091	380	冷凍庫等ガス回収		10,340	

IV 評価・検討

①課題	解体工事設計や用地測量については、関係課と連携し事業を実施する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	旧学校給食センターの跡地を有効活用することは、市関与の妥当性や有効性は高く、市民サービスの向上が図れるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	建物解体に向け、必要な測量や設計等の実施	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	用地測量、解体設計等を実施した	7,790	7,790	当初	7,790	6,091	H27からの繰越
				H27⇒28繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			6,091
		平成29年度への繰越額(単位:千円)					